

## 日本・ボツワナ共同プレス・ステートメント

2010年10月18日

東京

1. セレツェ・カーマ・イアン・カーマ・ボツワナ共和国大統領は、日本国政府の招待により、2010年10月17日から10月20日の日程で訪日している。

2. 今次訪問中、菅直人総理大臣とカーマ大統領は、2010年10月18日に首脳会談を行い、二国間、多国間及び国際場裡における相互の関心事項につき意見交換を行った。

3. 両首脳は、ボツワナ共和国大統領の今次訪日が、日本とボツワナの二国間関係を強化する上で画期的な出来事であるとの認識を共有した。

4. 双方は、在ボツワナ日本国大使館開設以降の二国間関係の進展につき確認し、これまでの成果に満足の意を表明した。両首脳は、現在の緊密な関係を、経済分野をはじめとして包括的に強化すべきであるとの認識を共有した。

5. 日本・ボツワナ間の経済関係を促進するため、双方は、レアメタルを含む鉱物資源の開発における協力拡大の重要性につき認識を共有した。この点に関し、両首脳は、ボツワナのロバツエにあるJOGMECボツワナ地質リモートセンシング・センターにて進行中の取組を歓迎した。

6. 両首脳は、アフリカ開発に向けた協力強化についても協議を行った。両首脳は、2008年に横浜で開催された第四回アフリカ開発会議（TICADIV）において日本政府が表明した、2012年までのアフリカ向けODA倍増及び対アフリカ民間投資倍増支援の公約に留意しつつ、TICADプロセスが、アフリカ開発のための国際的な協力の枠組として更に強化されるべきであるとの見解で一致した。

7. 双方は、また、日本の円借款の効果的な活用により広域インフラ開発を支援することの重要性についても協議した。この関連で、ボツワナは、カズングラ橋建設計画における日本との協力につき関心を表明した。更に、ボツワナは、モルプレA発電所改修、ザンベジ農・商業プロジェクト及びボツワナ教育テレビ設立についても日本との協力に関心を示した。

8. 両首脳は、国際場裡における協力についても話し合い、安保理を含む国連の組織改革の必要性につき認識を共有した。日本側は、日本の国連安保理常任理事国入りに対するボツワナの支持を歓迎した。

9. 双方は、更に、南部アフリカ開発共同体（SADC）地域の政治情勢等、相互に関心を有する地域的、国際的課題についても協議を行った。

10. 双方は、両国間の協力関係を強化する決意を再確認するとともに、二国間経済関係の更なる強化に向けた手段として、ボツワナ側関係省庁と在ボツワナ日本国大使館及び日本側関係機関との間で経済合同委員会を設置するとの決定を支持した。